

年間テーマ『旅する心優しきアイルランドの人々』

講師：石^{つわぶき}落の花（代表 齋藤幸子氏）
演題：『ハーン没後120年に寄せて「思い出の記」』

ラフカディオ・ハーン作品朗読

ラフカディオ・ハーンの父方のルーツはケルト（アイルランド）の民人であった。この民族のルーツはヨーロッパの臍（へそ）とも言うべき現在のオーストリア、ザルツブルク近郊の山中にあった。そして彼らは此处から西に向かって壮大な旅（移動）に出ていくのである。

ケルトの民は旅する民であった。ボヘミアンとも言われ、貧しくも力強い「流浪の民」であった。途上で出会ったラテン（ローマ）の軍勢に百戦百敗してイベリア半島に逃れ、遂に海を越えて北上し、ブリトン島（現在のイギリス）の周縁部にたどり着いた。現在のスコットランド、ウェールズ、アイルランドである。

旅する民は組織的な戦や国家形成・維持などは苦手であった。しかし芸術を生み出し、これを伝承していく文化力はすぐれていた。この心は詩や歌に託され、絵や踊りを演劇に結実して今日に伝えられている。

ハーンはその血を受け継いでいたと思われる。美しい散文は誌的で、民族の魂が込められた民話や説話や諺などへの愛着は大きかった。私たちの知る『怪談』や『骨董』はこの心から生み出されたものであった。

この市民講座では、熊本に約三年間いたハーンの心に繋がってアイルランドの心を皆様とともに楽しみたいと思います。皆様ぜひお越しください。

講師からひとこと

ハーン没後120年に寄せて「思い出の記」

来年の朝ドラ（バケバケ）のモデル小泉セツが語るハーンとの思い出の中に日常のハーンの姿を垣間見ることが出来ます。

プログラム

① かけひき（朗読）

自らを馬鹿に生まれたという咎人（とがにん）は恨みを持ったまま打ち首になった。その仕返しに来るという証拠に、切り落とされた首は近くの岩に噛みついた。恨まれた本人主人は・・・

② 阿弥陀寺の比丘尼（朗読）

お豊は相思相愛で婿養子に迎えた最愛の夫を失った。やがて悲しみを乗り越えて、一人小さな尼寺に暮らした。彼女を慕って集まる子ども達は親しみを込めて、阿弥陀寺のびくにさん！と呼んだ。

③ 西川盛雄先生のトークとハーモニカ

④ 思い出の記（朗読劇）

ヘルンは、活ばつな婦人よりも優しい淑やかな女が好きでした。眼も上向きでなく下向きにしているのを好みました。写真も少し下を向いて写せと申しました。ヘルン自身もそうしました。

期日：令和6年12月7日（土）14：00～15：30 参加費：無料

会場：お菓子の香梅帯山店ドゥ・アート・スペース

（熊本市中央区帯山7-6-84 国体道路沿い）

※ご来場は、駐車場が狭いため公共交通機関をご利用ください。